

栗原NN通信

2018年12月5日発行
第7号（平成30年度第3号）

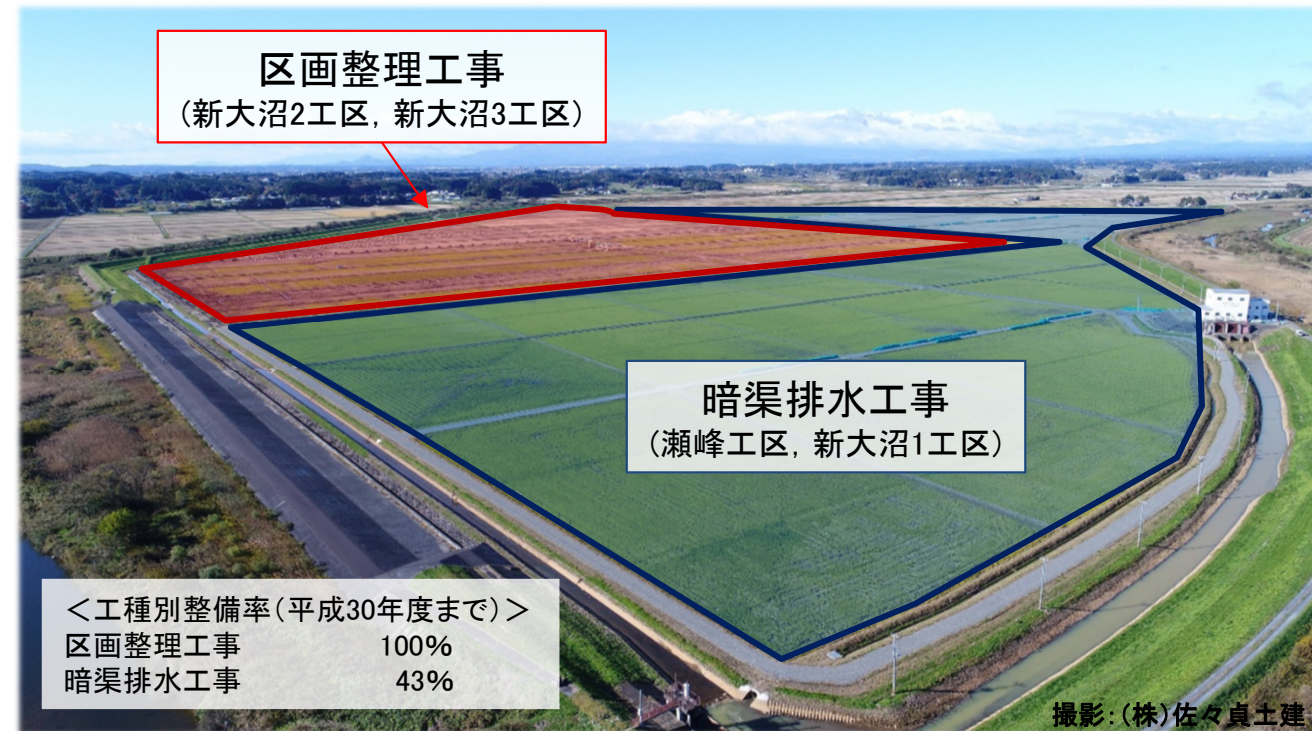


●現在施工中の農地整備事業「迫第四地区」の工事をご紹介します！

1. 迫第四地区の概要と平成30年度の工事について

迫第四地区は、宮城県栗原市の東に位置する面積約90haの水田地帯で、平成28年度から8箇年の計画で県営農地整備事業を実施しています。現在までに工事は順調に進捗しており、平成31年度には計画している工事の大部分を完了できる見通しです。

事業開始から3年目となる今年度は、農地の大区画化や道水路の整備を行い、農作業効率の向上を図る区画整理工事と農地の地下に排水管を埋設し、地下排水能力を向上させる暗渠排水工事を行っています。どちらの工事も平成31年春の作付けに間に合うよう、工事の進捗を図っていきます。



2. 渡り鳥(マガン等)への配慮について

迫第四地区に隣接する蕪栗沼は、日本最大規模のマガンの越冬地となっており、えさ場としての役割を持つ周辺水田とともに、平成17年からラムサール条約に登録されています。

迫第四地区はその周辺水田に位置づけられていることから、蕪栗沼をねぐらとして利用するマガンの習性を考慮し、ねぐら入りの時間(日没)までに重機作業を終了させる等、渡り鳥に配慮した工事を行っています。



●農地整備事業「川北2期地区」の工事現場で高校生を対象とした現場見学会が開催されました

平成30年10月25日(木)、宮城県迫桜高等学校総合学科の生徒2、3年生29人が、県営農地整備事業川北2期地区(栗原市若柳)の工事現場を見学を訪れました。

今回の現場見学は、高校生に建設業の魅力や社会における役割などへの理解を深めてもらおうと宮城県建設業協会栗原支部が企画したもので、今回が初めての開催となります。

当日は、川北2期地区の幹線排水路工事の現場で、工事を請け負っている建設会社の担当者から工事内容や工程等の説明を受けたあと、実際に現場の様子を見て回りました。生徒たちは、工事現場に興味深そうに見学しながら、「あの資材は何に使うのですか」といった質問をしていました。

続いて、UAV(ドローン)の操作実習も行われました。ドローンは小型で操作が簡単なことから、時間や労力がかかる測量や工事現場の空撮などに活用されています。

生徒たちは最新の技術に驚きつつ、「ドローンの飛行時間はどれくらいですか」など積極的に質問をしていました。

現場見学会を通じて、建設業の魅力を体感し、将来の進路選択の一助になることが期待されます。



●栗原市立金成小中学校で景観形成活動～花いっぱい運動～が実施されました！

平成30年10月24日(水)栗原市立金成小中学校で景観形成活動～花いっぱい運動～が開催されました。この活動は、国営造成施設管理体制整備促進事業の一貫として、迫川上流地区管理体制整備推進協議会(事務局:迫川上流土地改良区)が主催したものです。

当日は、栗原市立金成小中学校の3年生と7年生98人、地域の皆さん、関係機関(県、栗原市、宮城県土地改良事業団体連合会)が参加し、花の植栽活動を行いました。

土地改良区の職員から土地改良区の役割について、植栽アドバイザーの佐藤氏から花の植栽方法について、それぞれ説明を受けた後、参加者は、いくつかのグループに分かれ、プランターや鉢植えに花を植えていきました。

植栽した花は、ピオラ、パンジー、葉牡丹の3種類。児童の皆さんは、自分が好きな花を選んで鉢植えに植えていました。

植栽されたプランターは、小中学校近くを流れる軽辺幹線用水路に設置され、環境美化や景観形成などに役立っています。



●多面的機能支払活動組織「曾根地域環境を守る会」で稲刈り体験学習交流会が行われました！

平成30年10月2日（火）、栗原市一迫柳目曾根地内において、仙台市立荒町小学校の5年生との「稲刈り体験学習交流会」が、多面的機能支払活動組織「曾根地域環境を守る会」の主催で行われました。当日は地元農家（構成員）41人、児童87人が参加し、手刈りによる稲刈りを体験しました。児童たちは、地元農家に教わりながら上手に鎌を使い、初めての稲刈り作業に汗を流しました。



当事務所からも「農業と農村のいろいろなはたらき」についてお話ししました！



●沖富調整池の草刈りを行いました！

平成30年10月25日から11月2日にかけて、当部が管理する「沖富調整池」の草刈り作業を農業農村整備部職員直営により行いました。

沖富調整池は、平成24年に農林水産省の直轄事業で整備されたもので、県が農林水産省から施設の管理を受託しています。

今回の作業では、敷地内ののり面などに伸びた雑草を草刈機で刈り取りました。

今後も関係機関と連携しながら、沖富調整池の適切な維持管理に努めていきます。



伊豆野せせらぎ公園へ行ってみませんか？

栗原市一迫真坂地内に位置する伊豆野せせらぎ公園は、伊豆野頭首工に隣接した公園です。この公園は、迫川沿いの農地2,260haに用水を供給する伊豆野頭首工の歴史を今に伝えるため、昔の堰のミニチュアなどがある親水公園として地域用水環境整備事業により整備され、平成12年に完成しました。

せせらぎ公園からは、迫川から取水する伊豆野頭首工を臨むことができます。この堰は、約350年前に造られてから現在に至るまで農業用水を送り続けており、地域の農業に欠かせない施設となっています。また、日本疎水百選にも選定されていますので、ぜひ公園を訪れて、栗原の農業の歴史に触れてみてはいかがでしょうか。

冬期は水路に水が流れておりませんが、水がないことで堰の構造がよく観察できるので、またひと味違った楽しみ方もできます。



●目指せ！高収益作物の導入 ～管内担い手が野菜生産振興研修会に参加しました～

平成30年11月6日（火）、宮城県農業・園芸総合研究所の主催で、「野菜生産振興研修会～キャベツ等の安定生産と販売に向けて～」が行われました。当日は県内から多くの担い手と関係機関が参加し、栗原管内からは農業法人3組織と関係する土地改良区の担当者が参加しました。

現地視察では、岩沼市にある農事組合法人「林ライス」の農地でキャベツの機械化収穫実演が行われました。当日は法人の田村代表から作業体系についての説明があり、「稲作主体の土地利用型経営から助成金に頼らない経営を展開するため、キャベツ栽培を導入した。今後も面積拡大を図りたい」といった導入経緯についてもお話をいただきました。その後、農業・園芸研究所にてセミナーが開催され、害虫の抑制技術や経営収支の算定方法などについて説明がありました。

当部では、今後とも、農地整備を契機とした野菜等の高収益作物の導入推進に向け、担い手を対象とした研修会を開催するほか、こうした研修会についての情報提供を積極的に行ってまいります。



一気に収穫するぞ～！



●全国土地改良大会の参加者が「栗駒山麓ジオパーク」を訪れました！

全国土地改良大会宮城大会が10月16日から18日までの日程で開催され、16日の利府町のグランディ21での式典のあと、17日と18日の2日間にわたり県内の事業視察が行われ、「栗駒山麓ジオパーク」をテーマに、大会参加者のうち15人が荒砥沢ダムを訪れました。

岩手・宮城内陸地震で発生した大規模地すべりをその当時の写真等で振り返りながら、復旧の経過や栗原市が進めている「ジオパーク」構想について県や栗原市の担当者から説明しました。参加者は、地震直後の写真等を見ながら当時の状況に思いをはせているようでした。



編集後記

稲刈りも終わり、マガンなどが飛来する季節となりました。伊豆沼や内沼、^{かぶくりぬま}蕪栗沼に近い管内の水田に渡り鳥えさを求めて集まる風景がこの時期の風物詩となっています。栗原へお越しの際には、湿地だけでなく、水田にいる渡り鳥たちの姿も観察してみたいでしょうか。

栗原NN通信第7号をご覧いただきありがとうございました。



北部地方振興事務所栗原地域事務所
農業農村整備部(広報担当)発行

〒987-2251

宮城県栗原市築館藤木5-1

TEL: 0228-22-2111

FAX: 0228-22-9284

H P : <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nh-khgsin-ns/>

当部HP QRコード

